

## 古典籍の収集、保存及び利用サービス

国立中央図書館 古典籍運営室 古書専門員  
アン・ヘギョン (安惠璟)

### 1. 概要

古典籍(注1)の収集、整理、研究、保存、及び利用サービスを主管している古典籍運営室(注2)は現在、2007年に開所した国立中央図書館の図書館研究所に所属している。古典籍運営室は、1992年の資料組織課古書係と閲覧奉仕課古典資料室を統合して開室したのであり、古書専門員8人と司書3人の計11名の職員で構成されている。

国宝資料である金属活字本『十七史纂古今通要』と、初期のハングル本である宝物『積譜詳節』、ユネスコ世界記録遺産に指定された宝物『東医宝鑑』など、15種48冊の指定文化財を含めて合計27万余冊の古典籍を所蔵している。2011年8月現在の蔵書数は以下の通りである。

区分	冊数	備考
古典籍	245,015	貴重書912種 3,373冊
個人文庫	25,566	葦滄文庫等8つの文庫
開架資料	3,748	洋装族譜(注3)、参考典籍
マイクロフィルム	11,865巻	貴重書、返還文化財、族譜等
合計	286,194	国宝1種1冊、宝物9種39冊、 地方文化財5種8冊(合計15種48冊)

### 2. 古典籍の収集と整理

古典籍運営室では、韓国民族の精神史が込められた、知的所産物である典籍文化遺産を網羅的に収集するために、図書館が未所蔵の貴重な古典籍の購入事業と、国内外に所在している韓国の古典籍の調査及び影印事業を推進している。

1 訳注：韓国語原文では「古文献」となっているため「古文献」と通訳される可能性が高いです。

2 訳注：同上、「古典運営室」と通訳される可能性が高いです。

3 訳注：族譜とは一族の系譜を記した家系譜。

購入資料の基準としては、1910年以前に刊行または筆写された線装本及びそれ以降の刊行本で装丁の形態が線装本であるものや、内容上、古典籍資料の性格を有する資料のうち当館未所蔵の古書、古文書、古地図などを対象としている。特に、文集、族譜、地誌資料等を継続的に収集して、当館所蔵の古典籍の特性を維持し、朝鮮時代の金属活字本、ハンダ本、唯一本など貴重な資料の重点的な発掘、購入を優先している。毎年、購入公告を通じ、全国の古書店や個人所蔵家の売り渡し希望の資料を受け付け、実物の調査や外部専門家の鑑定評価によって最終的な購入対象資料を選定している。今年も、古書「水原白氏一括文書」など72種1,097冊(点)と、古地図『地球前後図』など21種22点を購入した。

また、国家文献を保存する国家代表図書館として、韓国の古典籍資料のうち、国外にのみ所蔵されている唯一本、貴重書を調査、影印する事業も推進している。国内未所蔵古典籍を拡充し、永久保存しようと、フランス、ドイツ、日本、米国等7か国31か所で3,205種8,332冊をマイクロフィルム、複製本の製作、デジタルファイルの形態で影印・収集した。最近では米国ハーバード大学イェンチン(燕京)図書館とコロンビア大学図書館所蔵の韓国の古典籍をデジタル化し、利用者に提供した。

国家代表図書館の機能のうち、国家文献の網羅的収集と活用性の強化を目的として、国内の各機関及び民間に所蔵された資料の調査、影印収集事業は、有事の際に、貴重な典籍文化遺産が流失するのを防止し、利用者の資料研究に便宜を提供することになる。今年、奎章閣で収集した「資治通鑑」など、1,911種4,564冊(マイクロフィルム225巻)を含め、現在までに5機関で約8万冊を、主にマイクロフィルムの形態で収集した。

資料が収集されると、納本、購入、受贈、自館生産などの収集区分をし、「国立中央図書館資料登録規定」に基づいて登録する。資料の登録と整理は、古典籍運営室の古書専門員が直接行っている。

分類は「韓国十進分類表・朴奉石編(KDCP)」の分類表を適用しているが、これは、小数点を使わずに4位まで記述する十進分類表である。請求記号は「別置記号+分類記号+図書記号」で構成される。(例：論語集註は古1239-11)但し、伝記、族譜、文集の場合、姓氏記号で区分した後、受入順の一連番号である図書記号を付与する。(例：李氏が著者の文集は、古3648-62-931)

データの記述形式は、「韓国文献自動化目録形式(KORMARC)統合書誌用」により目録レコードを入力し、「韓国目録規則(KCR)第4版」を適用して目録を作成している。

### 3. 古典籍の保存管理

国の文献資料を体系的かつ科学的に保存するために、2000年8月に地下4階、地上2階規模の資料保存館を建設した。恒温恒湿施設や調湿パネル、結露防止、ガス式消火施設等の設備を備えた貴重書庫と約30万冊を収蔵できる古書庫は、地下4階に位置している。地上2階にある資料保存センターは、IFLA PAC 韓国センターとして、資料の破損予防の処理と保存・復元処理の業務を行っており、保存科学研究室、電子媒体の保存処理室、脱酸処理室、燻蒸消毒室、製本室等を管理、運営している。

地下4階にある資料保存館の古書庫の面積は1,666㎡であり、チョウセンマツ集成材で製作した木製書架303組と、卷子本書架3組が設置されている。貴重書庫の面積は366㎡で、重層構造になっている。1層は古典籍貴重本書庫に、中層は一般書貴重本図書館に使用される。1階にはチョウセンマツ集成材で製作した木製書架88組、古地図保存箱9組、屏風類保存箱6組がある。外部の環境汚染因子を遮断して湿度を調節する機能を持った調湿パネル（天井、壁）とブナ（フロア）施工を導入しており、書庫4面に空気層を置いて外部からの急激な温度変化を防止し、書庫全体を完全密閉しての燻蒸消毒が可能な特殊扉で施工している。現在、貴重書庫には、古典籍、雑誌、新聞、屏風など、計6,199点が所蔵されている。

貴重書は毎年、「国立中央図書館貴重資料取扱規定」に基づき、指定基準を満たす資料を対象に、外部の専門家の審議を経て指定している。2010年度に指定された『定運原従功臣録券』等、17種18冊を含む、912種3,373冊の古典籍貴重書を現在保有している。

古典籍運営室では、破損と自然酸化から古典籍資料を保護し、永久保存するために、所蔵資料のマイクロフィルムを製作している。原文データベースや複本のない外国古書、利用度の高い資料を優先対象として製作している。

歳月による汚れや汚染及び物理的損傷から古典籍を保護するための帙(包匣)の製作と、破損した古典籍資料の頁に別の紙を重ねて修理復元する裏打ち(楮接)作業を通して資料の保存効果を高めている。また、閲覧目的での頻繁な利用による古典籍の原本の毀損防止や永久保存のために複製本を製作して利用者に提供する。

#### 4. 古典籍のデジタル化

(’11.6.30 現在)

区分	古書	古文書	古地図	合計
数量	93,150 冊	4,051 種	91 種	97,292 冊
	13,862,437 頁	5,576 頁	3,331 頁	13,871,344 頁

1995年以降、国立中央図書館に所蔵された国宝、宝物など文化財をはじめ、古典籍資料の目次及び解題情報はテキストで、原文情報は画像データで構築し、図書館ホームページを通じて提供している。所蔵資料をデジタル画像に変換し、自動化された目録とリンクさせると、資料の保存と検索、利用が一つのシステムで、コンピュータで自動化されるのである。

デジタル化作業に先立ち、資料の保存価値及び利用価値を考慮して、貴重さ、希少性を検討してデジタル化する順位を決定した後、対象資料を選定した。

現在までの古書の原文データベース構築件数は、93,150冊 13,842,437頁、古文書は4,051点 5,576頁、古地図は91点 3,331頁で、族譜資料、複製資料などを除き、原文のデータベース構築対象古書の約70%近くの構築が完了した。特に古地図の場合、地名や位置での検索が容易にできるように地名索引の作成や地図の位置へのリンク情報を収録しており、高解像度の画像で撮影し、別のビューアを使用して原文を提供している。

韓国古典籍総合目録システム（KORCIS：Korean Old and Rare Collection Information System）<sup>1)</sup>（注<sup>4)</sup>は、国内外に所在する韓国の古典籍を対象に、古書目録データベース、原文データベース、解題データベースおよび目次データベースを構築し、古典籍資料に関心が高い研究者たちに提供するための統合資料ベースシステムである。

韓国の古典籍の現況把握及び古典籍目録の標準化、目録・原文データベースの共同構築のために、2005年から国立中央図書館が主軸になって国内の奎章閣韓国学研究院など52機関、国外の場合、米国ハーバード大学燕京(イェンチン)図書館など33機関が参加している。現在、古典籍目録データベースの構築は425,354件、原文データベースの構築は、1,781件、原文データベース連携は36,029件である。

各機関で独自の方法で作成した目録に対して、標準化された古書用MARCを適用し、同じバージョンに対する重複作成を最少化している。利用者の面でも、一ヶ所で韓国の古典籍の目録の検索と所在の把握、原文情報の閲覧が可能で、資料利用の効率を極大化した。

## 5. 古典籍の研究と利用サービス

古典籍運営室では、所蔵する古典籍を解題及び現代語訳し、関連の解題集、国訳（注<sup>5)</sup>叢書、研究資料集と文化財影印本を刊行している。

古典籍の解題は、国立中央図書館の解題諮問委員会の諮問を受けて実施する。解題が必要な対象資料について、専門家に依頼して作成をし、校正済みの資料は解題データベースとして構築して利用できるようにしている。2010年には510種677冊についての解題を行っており、現在までに対象資料の古書22,500種のうち24%にあたる

---

<sup>4)</sup> 原文注：www.nl.go.kr/korcis

<sup>5)</sup> 訳注：漢文で表記された古典を現代語に翻訳すること。

5,388種が完了しており、古文書は、全体の古文書 16,362種すべての解題が完了した。解題が完了した資料の中でテーマ別に対象を選定し、善本解題集 2) (注 6) と古文書解題集 3) (注 7) を毎年刊行している。

また、当館所蔵の唯一本、貴重書を対象として、研究者や一般の人に提供する価値のある資料の中で、他機関で翻訳されていない資料を優先的に現代語訳し、韓国古典国訳叢書 4) (注 8) を刊行し、関連機関への配布及び販売をしている。

国立中央図書館は 15 種の国家指定文化財を所蔵しているが、文化財や貴重書を対象に、原本同様の影印本を製作し、韓国の古典籍文化財を国内外に広報するとともに、研究資料として活用している。

こうした資料を活用して、古典籍運営室は資料室で利用サービスを行っている。特に、当館は約 3 万冊の古典籍、族譜資料の最大の所蔵機関であり、多くの利用者が閲覧のために来館している。洋装族譜は開架制、その他の資料は閉架制で運営しており、資料の利用は、原文データベース、マイクロフィルム、複製本などメディア変換した代替資料を利用する必要がある。代替資料のない資料に限り、一週間前に申請すれば、原本を閲覧することができる。

また、所蔵する古典籍を対象に、四半期ごとに資料室内での常設展示と年 1 回の企画展 5) (注 9) を開催し、古典籍資料への興味と親近感を湧かせ、韓国の優秀な古印刷文化を広報している。今年からは、簡単で楽しく理解できる講演を通じて、所蔵する古典籍資料を積極的に紹介、広報しようと、四半期ごとに「物話で解いていく古典籍講座」を開催して大きな反響を呼んでいる。

以上で、国立中央図書館の古典籍資料の収集、保存、利用サービス等の全般に関して、古典籍運営室において進めている事業を中心に説明した。古典籍を単に保管する場だけにとどまらず、積極的に発掘し、その価値についてさまざまな方法で紹介し、デジタル化を通じてどこからでも利用できるようにインフラを構築することが重要であろう。

---

6 原文注：2010年刊行された『善本解題 12』には当館所蔵地理誌 578種 1,394冊の目録を掲載し、そのうち 170種の原文画像と詳細な解題を付した。今年 は日記類を対象とする。

7 原文注：2010年刊行された『古文書解題VII』には 2009年に引き続き 950種の戸籍類の目録を収録し、そのうち 470種の原文画像と簡略な解題を付した。今年 は買売文記類を対象とする。

8 原文注：2010年には 17世紀の兪得一が北京を往来した時に記録した使行日記である『燕行日記艸』を現代語訳し刊行した。今年 は『家礼郷宜』、『錦帯殿策』を対象とする。

9 原文注：今年 は 6月 14日から 7月 8日までデジタル図書館展示室において“金正浩の夢、大東輿地図の誕生”というテーマで朝鮮時代の地図学者である金正浩にスポットを当て、関連古地図と地理誌を展示した。

最後に、国立図書館の業務交流を通じて、日韓両国の古典籍資料の収集、保存、利用に関して知ることができる場を提供できることをうれしく思っている。今後、関連分野の交流のための基礎になる機会となることを望んでいる。